〈論　文〉

書きことばにおける形容詞の使用状況

── 学習者と母語話者の比較 ──

木　下　謙　朗

キーワード：形容詞，書きことば，修飾部用法，述部用法，多様性

1. はじめに

本研究は日本語学習者と日本語母語話者（以下，JNS）の作文に表出した形容詞[1] の表出状況を観察したうえで，先行研究で述べられている日本語学習者と JNS の話しことばにおける形容詞の表出状況を比較し，その特徴を明らかにするものである。

形容詞は多くの教科書で初級の早い段階で導入されており，『日本語能力試験出題基準［改訂版］』（国際交流基金・日本国際教育支援協会 2007, 以下，『出題基準』）では，4 級の文法リストにあげられている。

⑴ 『日本語能力試験出題基準［改訂版］』― 4 級―（国際交流基金・日本国際教育支援協会 2007）

A. 文法事項

A-Ⅰ　文型/活用等

［途中省略］

3　形容詞の現在形/過去形（肯定，否定）

［例文省略，以下同］

4　形容詞のテ形

5　形容詞の連用形＋動詞

6　形容詞＋名詞

7　形容詞＋ノ

8　形容動詞の現在形/過去形（肯定，否定）

9　形容動詞の「テ形」（デス/ダの中止形デ）

10　形容動詞の連用形＋動詞

11　形容動詞＋名詞

12　形容動詞＋ノ（ノ＝名詞の代用）

（『出題基準』pp. 127-128）

このように『出題基準』では形容詞の機能として，述語として機能する述語用法，名詞の修飾語として機能する連体用法，動詞を修飾する連用用法の 3 つの機能があげられており（橋本・青山 1992），述語用法と連体用法は同時に導入されている教科書が多くみられる。

2. 先行研究

日本語学習者やJNSが使用する形容詞の表出位置についての調査報告はいくつかある。曹・仁科（2006a）ではJNSの作文に表出した形容詞について，曹・仁科（2006b）では日本語学習者（中国語母語話者）の作文に表出した形容詞について，イ形容詞とナ形容詞が修飾部，述部でそれぞれどのくらい表出しているのかを調査している。その結果，イ形容詞についてみると，JNSは述部での使用が修飾部の使用の約4倍となっているが，学習者は修飾部と述部で約10%の違いしかみられず，修飾部と述部でほぼ同様の使用がみられる。ナ形容詞についてみると，JNSは修飾部と述部でほぼ同様の使用がみられるのに対し，学習者は述部よりも修飾部での使用が約30%多くなっており，イ形容詞とナ形容詞に共通してJNSより学習者のほうが修飾部での使用が多くみられ，JNSと学習者で修飾部と述部，イ形容詞とナ形容詞の表出数の割合が異なっていることが報告されている。

また，仁田（1988）では現代小説（520頁余り）に表出する形容詞を，名詞を修飾限定する用法と，述語として働いている用法とに区別し調査している。ここでは，イ形容詞とナ形容詞の区別はされていないが，述部にあらわれる形容詞は修飾部にあらわれるものの約半分しか出現せず，曹・仁科（2006a, b）とは異なる表出状況となっている。曹・仁科（2006a, b），仁田（1988）はいずれも書きことばの調査であるが，話しことばの調査については木下（2007）がある。

木下では学習者（英語，中国語，韓国語をそれぞれ母語とする）の資料を自然発話といわれている（ニャンジャローンスック2001等）「KYコーパス」を使用し，またJNSの資料は「上村コーパス」を使用し修飾部と述部にあらわれる形容詞について調査している。その結果，形容詞の修飾部と述部の割合が，イ形容詞とナ形容詞に共通してレベルの上昇にともないJNSに近づくと述べている。

そこで本稿では，日本語学習者とJNSの書きことば[(2)]に表出した形容詞の使用状況を概観し，学習者とJNSで形容詞の使用実態（表出位置，使用語彙）は異なるという仮説を立て，分析する。

3. 調査資料

本稿では，国立国語研究所（2001）の『日本語学習者による日本語作文と，その母語訳との対訳データベースver. 2. CD-ROM版』から抽出したCNS（課題1，課題2，それぞれ5名），KNS（課題1，課題2，それぞれ5名），JNS（課題1，課題2，それぞれ5名）の計30名分を使用する。CNS, KNSの学習時間は約1,000時間程度である。課題1は「あなたの国の行事について」，課題2は「たばこについてのあなたの意見」である。学習者，JNSへの課題の指示は以下のようである。

・日本語母語話者への課題

以下の課題からひとつを選び，日本語で 800 字程度の作文を書いてください。日本の事情をよく知らない国外の人びとに読んでもらうつもりで書いてください。

作文課題 1

日本の行事や祭り，祝い事などの中からひとつを選び，日本語で紹介文を書いてください。

作文課題 2

喫煙を規制するかどうかには賛否両論があります。喫煙は百害あって一利ないものであるから，公共の場所ではたばこを吸えないよう法律で規制すべきだ，またたばこのコマーシャルは子どもに悪影響を与えるから，テレビ等での放送も厳しく制限すべきだ，という意見がある一方，喫煙者にも喫煙の権利があるはずだから，規則で一律に禁止するのは不当である，という意見もあります。この件に関するあなた自身の考えを，規制反対か賛成か必ずどちらかの立場に立ったうえで，日本語で論じてください。

・日本語学習者への課題

作文課題 1

あなたの国にある行事やお祭り，おいわいごとなどをひとつえらんで，日本人の学生や大学の先生たちに日本語で紹介してください。800 字くらいで書いてください。

作文課題 2

今，日本ではたばこのことが問題になっています。ある人は言います。「会社やレストラン，バスや電車など公共の場所ではたばこを吸えないよう規則を作るべきだ。また，たばこのコマーシャルは子どもに悪い影響を与えるから，テレビで放送できないようにするべきだ」。

一方，次のように言う人もいます。「規則を作って禁止するのはおかしい。だれにもたばこを吸う権利があるはずだ」。

あなたはどのように思いますか。たばこについてあなたの意見を書いてください。

4. 結果と考察

4.1　形容詞の表出状況

学習者と JNS の資料（30 編）から抽出した形容詞は，イ形容詞 139 例，ナ形容詞 91 例であった。図 1，2 は形容詞の表出数を形容詞の種類別（イ形容詞とナ形容詞），表出位置別（修飾部と述部）に分けたものである。図 1 の課題 1 では，どの母語話者においても総表出数が約 40 例となっているが，表出位置や形容詞の種類は母語によって異なっている。図 2 の課題 2 では，母語によって総表出数，表出位置，種類が大きく異なっているのがわかる。特に，JNS の表出数は KNS の約

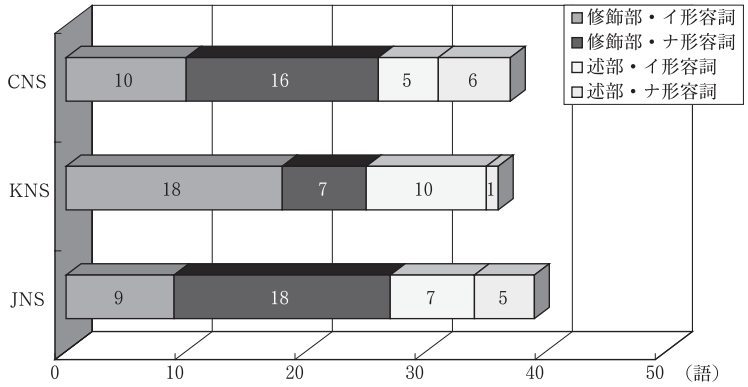

図 1　形容詞表出状況（課題 1）

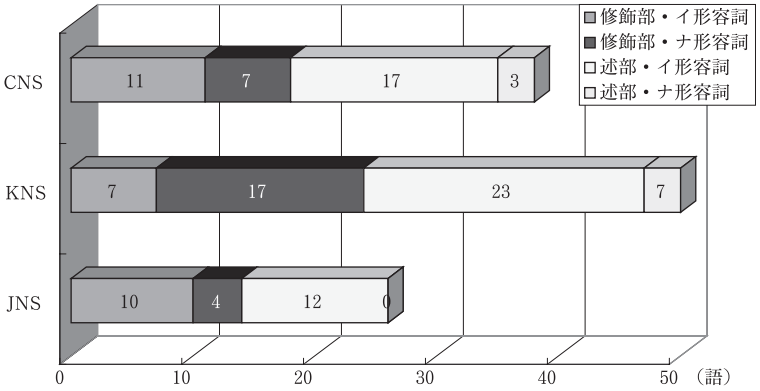

図 2　形容詞表出状況（課題 2）

半数となっており，作文のトピックによって使用する形容詞が異なると予想できる。

作文の字数は課題の指示によると「800 字程度」とあるが，書き手によって異なっていると思われる。そこで母語別に文節数を計算したところ（表 1），母語や課題によって文節数は異なっていることがわかった。この結果を踏まえ，1 文節あたりに何語の形容詞が使用されているかを母語別に比較するため，図 3，4 に 1 文節あたりの表出状況を課題別に示す。

表 1　母語別にみた文節数

		文節数
JNS	課題 1	67
	課題 2	94
CNS	課題 1	106
	課題 2	86
KNS	課題 1	80
	課題 2	99
学習者[3]	課題 1	93
	課題 2	92.5

1 文節あたりの形容詞の表出状況を観察すると，課題 1（図 3）の場合は JNS＞KNS＞CNS の順で高くなり，課題 2（図 4）の場合は KNS＞CNS＞JNS の順で高くなっていた。課題 1 の「行事」についての作文は，学習者と JNS でほぼ同数の形容詞の使用がみられたが（図 1），1 文節あたりの表出状況をみると（図 4），JNS＞KNS＞CNS の順で形容詞の使用頻度が高いことがわかっ

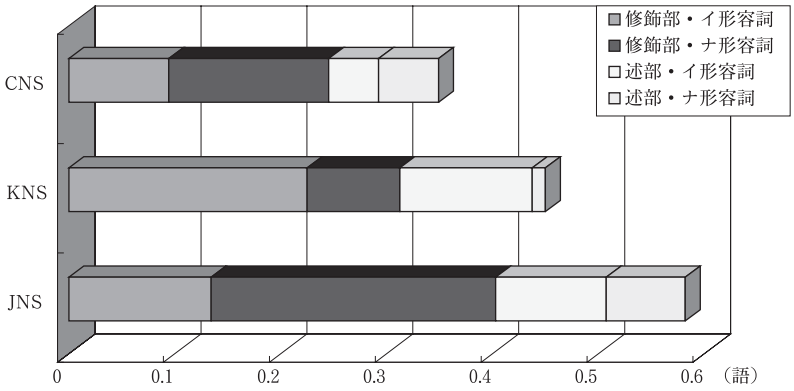

図 3　1 文節あたり形容詞表出状況（課題 1）

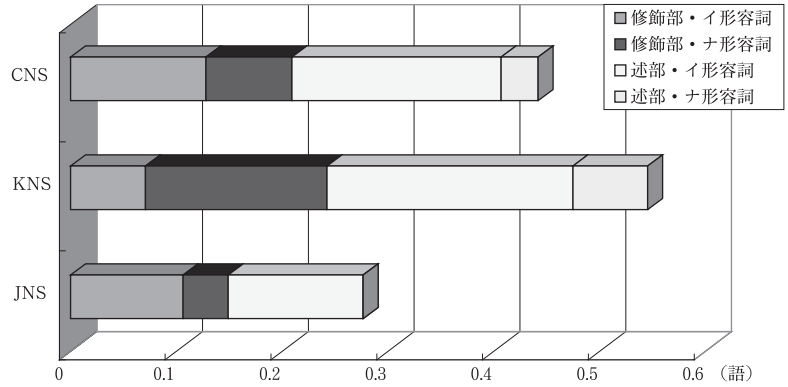

図 4　1 文節あたり形容詞表出状況（課題 2）

た。課題 2 の「喫煙の規制」については，形容詞の使用数と 1 文節あたりの表出状況に強い正の相関がみられた（$\gamma = 0.993$）。このことから，課題 2 においては形容詞の使用頻度や文節数は母語により異なるが，1 文節あたりの形容詞の使用頻度は KNS, CNS, JNS で共通していることが明らかとなった。

次に，表出した形容詞を表出位置別，種類別に割合（100%積み上げ）を出したのが図 5, 6 である。

図 5 から課題 1 においては，学習者と JNS に共通して形容詞の表出位置が修飾部で約 65%となっているが，形容詞の種類は母語により異なっていることがわかる。また，図 6 から課題 2 においては，形容詞の表出位置が学習者は修飾部で約 45%となっているが，JNS は約 60%となり，学習者と JNS で異なった結果となった。形容詞の種類については，課題 1 と同様に母語により異なっていた。

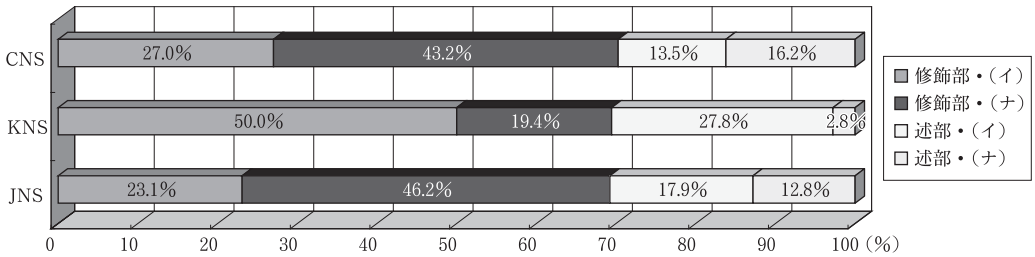

図 5　1 文節あたり形容詞表出頻度（課題 1）

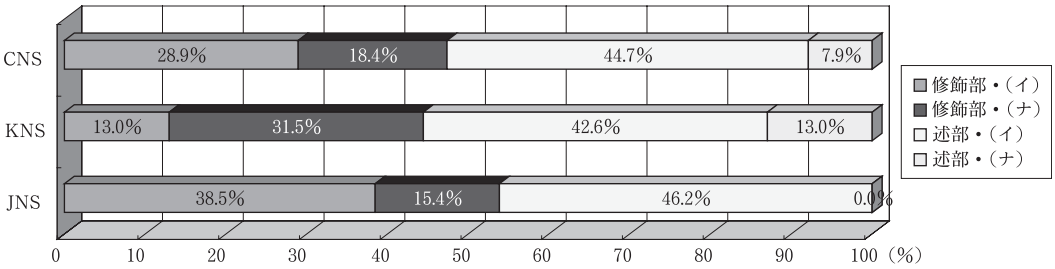

図 6　1 文節あたり形容詞表出頻度（課題 2）

4.2　書きことばと話しことばの比較

次にイ形容詞とナ形容詞が，修飾部と述部に表出する割合を，先行研究（木下 2007）の話しことばと比較し，書きことばと話しことばの差異を観察する。図 7, 8 の上部 3 つは本研究の書きことば，下部 5 つは先行研究の話しことばである。

その結果，修飾部で使用する割合は，話しことばと書きことばに共通してイ形容詞よりもナ形容詞が多い。また，イ形容詞とナ形容詞に共通して，話しことばよりも書きことばのほうが，修飾部で使用する割合が 10%以上も高くなっていることが明らかとなった。その理由として，話しことばの場合は瞬間的に使用する語彙を頭の中で処理しなければならないが，書きことばの場合は時間的にも視覚的にも自身で推敲する機会があるため，形容詞を述語用法ではなく，連体用法として使用することが多くなったと考えられる。話しことばである先行研究の場合，レベルの上昇にともない発話する際に自動化がおこり，推敲する時間が短くなることから形容詞の修飾部での使用が増加するのであろう。

4.3　形容詞の頻度

最後に修飾部のイ形容詞，修飾部のナ形容詞，述部のイ形容詞，述部のナ形容詞として使用される形容詞を質的に観察する。使用される形容詞の種類や頻度は作文の課題によって異なると思われるが，本研究では学習者と JNS で同一のトピックで書かれた作文を使用し観察をしている。そのため，同一課題における形容詞の使用状況は，学習者より JNS のほうが異なり語数も多く，使用

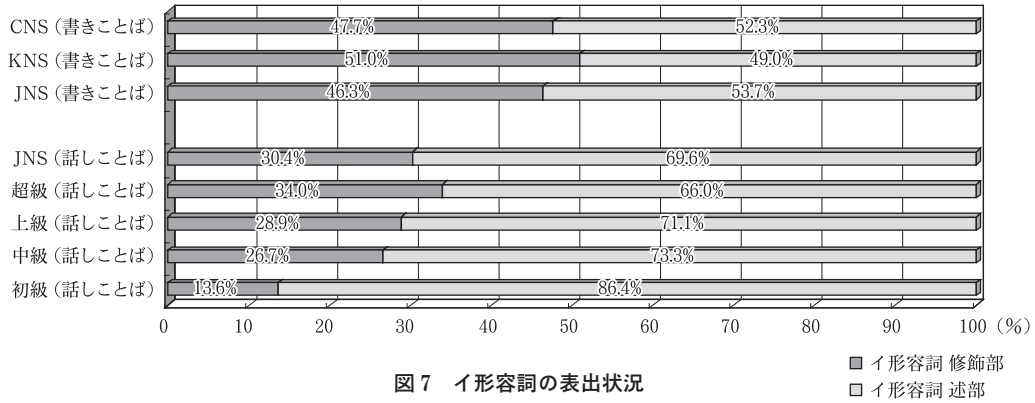

図 7　イ形容詞の表出状況

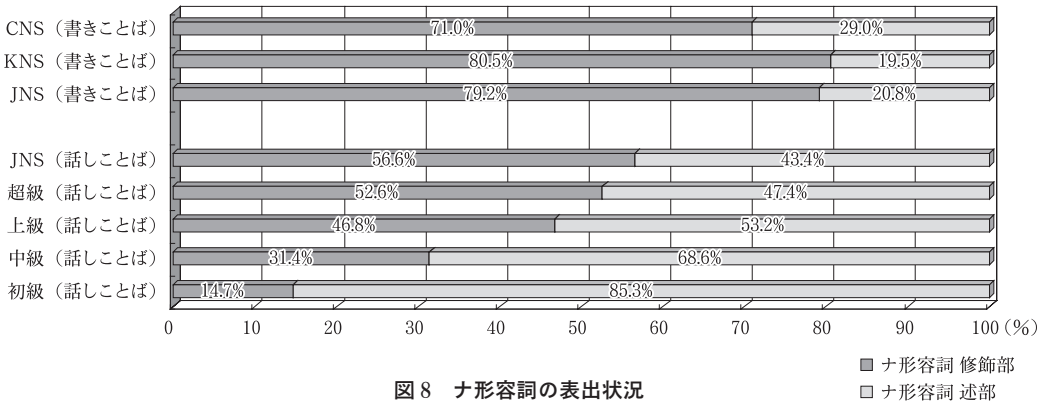

図 8　ナ形容詞の表出状況

表 2　課題 1 の多様性

	イ形容詞		ナ形容詞	
	修飾部	述部	修飾部	述部
CNS	0.80	1.00	0.50	0.83
KNS	0.72	0.70	0.86	1.00
JNS	0.88	0.88	0.67	0.83

表 3　課題 2 の多様性

	イ形容詞		ナ形容詞	
	修飾部	述部	修飾部	述部
CNS	0.27	0.59	0.86	0.67
KNS	0.71	0.35	0.76	0.71
JNS	0.60	0.50	1.00	0.00

語彙の多様性も高いと筆者は予想していた。しかし，表 2, 3 の結果をみると（数値は 1 に近ければ近いほど多様性が高い）すべての表出位置，形容詞で JNS の多様性が高いわけでもなく，形容詞の表出しない箇所（網掛け部）も存在した。

また，書きことばとして使用される形容詞は，学習者よりも JNS のほうが難易度の高い語彙を使用すると予測していた。しかし，実際に表出した形容詞を母語別，表出位置別にみても（表 4〜9：各母語話者の表出した形容詞の語彙表を参考資料として付記する），JNS の使用語彙が特別難易度の高いものばかりではなかった。ナ形容詞においては，学習者にも 1 級・2 級の語彙使用があり，母語による使用語彙の難易度の違いはみられなかった。

5. おわりに

本稿は書きことばにおける形容詞の表出状況について，学習者と JNS と比較し，また書きことばと話しことばとの比較をおこなった。その結果，以下の 3 点が明らかとなった。

① 作文の課題により，使用する形容詞数，1 文節あたりの表出頻度，修飾部と述部の表出割合は異なる。
② 話しことばと書きことばを比べると，形容詞の種類に関係なく書きことばにおいて修飾部での使用が多い。
③ 使用形容詞の多様性と難易度は学習者に比べ JNS が高いというわけではない。

河野（2008）では話しことばの特徴として以下のように述べている，

> 日常談話では，連体修飾語の割合が少なく，独立語が多い。また，文構造が単純で短い物が多く，一文中の多くの情報をつめこもうとするのではなく，短い積み重ねによって少しずつ段階を追って情報の伝達を行おうとしている。

今回の結果では，話しことばよりも書きことばにおいて連体用法の使用が高いことが明らかになったが，これは河野（2008）を支持する結果であったといえるだろう。連体用法の少ない話しことばは学習者のレベルの上昇にともない，連体用法が増加するとの報告があったが（木下 2007），書きことばにおいてもレベルの上昇によって変化するものだろうか。今後は書きことばについて，レベル変化による連体用法の使用割合の変化や，連体用法で使用される形容詞や，形容詞と共起する名詞の特徴を明らかにし，使用頻度の高い形容詞や共起する名詞の語彙教材などを作成し，日本語教育の現場に応用できればと考えている。

〈注〉

（1） 本稿で「形容詞」を使用するときはイ形容詞とナ形容詞の両方を含むものとする。
（2） 本稿でいう「書きことば」とは単に書かれたもの（作文）を指すこととする。
（3） 学習者とは CNS と KNS の平均。

参考文献

河野俊之（2008）「話し言葉の教育」『日本語学』vol. 27-5 臨時増刊号，特集　話し言葉の日本語，212-221
木下謙朗（2007）「日本語学習者のイ形容詞の使用実態 ── 母語別習得モデルに向けて ──」『第 18 回第二言語習得研究会全国大会予稿集』，73-78，第二言語習得研究会（JASLA）
国際交流基金・日本国際教育支援協会（編）（2007）『日本語能力試験出題基準［改訂版］』
スニーラット・ニャンジャローンスック（2001）「OPI データにおける「条件表現」の習得研究 ── 中国語，

韓国語，英語母語話者の自然発話から ──」『日本語教育』111 号，26-35
曹紅荃・仁科喜久子（2006a）「中国人学習者の産出した共起表現から見る語彙習得の問題 ── 作文対訳データベースの活用 ──」第 56 回第二言語習得研究会配布資料
──────────（2006b）「中国人学習者の作文誤用例から見る共起表現の習得及び教育への提言 ── 名詞と形容詞及び形容動詞の共起表現について ──」『日本語教育』130 号，70-79，日本語教育学会
田中稔子（1990）『田中稔子の日本語の文法 ── 教師の疑問に答えます ──』近代文藝社
仁田義雄（1988）「日本語文法における形容詞」『月刊言語』Vol. 27，No. 3，26-35，大修館書店
橋本三奈子・青山文啓（1992）「形容詞の三つの用法：終止，連体，連用」『計量国語学』18 巻 5 号，201-204，計量国語学会
水谷信子（1994）『日本語の教え方・実践マニュアル　実例で学ぶ誤用分析の方法』アルク

表 4　CNS 表出語彙（課題 1）

修飾部（イ）	基準（級）	表出数	修飾部（ナ）	基準（級）	表出数	述部（イ）	基準（級）	表出数	述部（ナ）	基準（級）	表出数
赤い	4	3	～的	2	5	いい	4	1	大切	4	2
いい	4	1	重要	2	3	多い	3	1	簡潔	1	1
おいしい	4	1	いろいろ	4	2	楽しい	4	1	重要	2	1
大きい	4	1	盛ん	3	2	冷たい	4	1	好き（大）	4	1
細かい	3	1	主要	2	1	ない	4	1	賑やか	4	1
白い	4	1	盛大	1	1						
小さい	4	1	大切	4	1						
古い	4	1	賑やか	4	1						
異なり語数 8		延べ語数 10	異なり語数 8		延べ語数 16	異なり語数 5		延べ語数 5	異なり語数 5		延べ語数 6

表 5　KNS 表出語彙（課題 1）

修飾部（イ）	基準（級）	表出数	修飾部（ナ）	基準（級）	表出数	述部（イ）	基準（級）	表出数	述部（ナ）	基準（級）	表出数
親しい	2	3	独特	2	2	多い	3	3	～的	2	1
暖かい	4	2	温暖	2	1	ない	4	2			
いい	4	2	様々	2	1	いい	4	1			
素晴らしい	3	2	残念	3	1	寒い	4	1			
赤い	4	1	重要	2	1	素晴らしい	3	1			
暑い	4	1	新鮮	2	1	安い	4	1			
嬉しい	3	1				よい	4	1			
えらい	2	1									
大きい	4	1									
暗い	4	1									
涼しい	4	1									
高い	4	1									
よい	4	1									
異なり語数 13		延べ語数 18	異なり語数 6		延べ語数 7	異なり語数 7		延べ語数 10	異なり語数 1		延べ語数 1

表 6　JNS 表出語彙（課題 1）

修飾部（イ）	基準（級）	表出数	修飾部（ナ）	基準（級）	表出数	述部（イ）	基準（級）	表出数	述部（ナ）	基準（級）	表出数
い　い	4	2	様　々	2	5	な　い	4	2	様　々	2	2
白　い	4	1	いろいろ	4	3	暑　い	4	1	い　い	4	1
楽しい	4	1	～　的	2	1	美しい	3	1	簡　素	1	1
早　い	4	1	鮮やか	1	1	多　い	3	1	自　由	3	1
広　い	4	1	ささやか	級外	1	大きい	4	1	好　き	4	1
細長い	級外	1	シンプル	級外	1	面白い	4	1			
丸　い	4	1	好　き	4	1	少ない	3	1			
			スタンダード	級外	1						
			にぎやか	4	1						
			華やか	1	1						
			ユニーク	1	1						
			立　派	4	1						
異なり語数 7		延べ語数 8	異なり語数 0		延べ語数 24	異なり語数 7		延べ語数 8	異なり語数 5		延べ語数 6

表 7　CNS 表出語彙（課題 2）

修飾部（イ）	基準（級）	表出数	修飾部（ナ）	基準（級）	表出数	述部（イ）	基準（級）	表出数	述部（ナ）	基準（級）	表出数
悪　い	4	7	～　的	2	2	い　い	4	5	好き（大）	4	1
い　い	4	3	いろいろ	4	1	悪　い	4	4	無　理	3	1
痛　い	4	1	勝　手	1	1	多　い	3	1	吝　嗇（りんしょく）	級外	1
			かわいそう	2	1	おかしい(変)	3	1			
			嫌　い	4	1	厳しい	3	1			
			好　き	4	1	少ない	3	1			
						高　い（死亡率）	4	1			
						たまらない	2	1			
						強　い	4	1			
						難しい	4	1			
異なり語数 3		延べ語数 11	異なり語数 6		延べ語数 7	異なり語数 10		延べ語数 17	異なり語数 2		延べ語数 3

表 8　KNS 表出語彙（課題 2）

修飾部（イ）	基準（級）	表出数	修飾部（ナ）	基準（級）	表出数	述部（イ）	基準（級）	表出数	述部（ナ）	基準（級）	表出数
よい	4	2	いろいろ	4	3	よい	4	7	当たり前	2	2
悪い	4	2	きれい	4	2	いい	4	5	重要	2	2
大きい	4	1	有害	級外	2	苦しい	2	3	大丈夫	4	1
幼い	2	1	～的	2	1	多い	3	2	大変	4	1
楽しい	4	1	おろか	1	1	高い	4	2	敏感	1	1
			様々	2	1	若い	4	2			
			重要	2	1	おかしい(変)	3	1			
			好き	4	1	ない	4	1			
			健やか	1	1						
			大変	4	1						
			敏感	1	1						
			下手	4	1						
			無責任	級外	1						
異なり語数 5		延べ語数 7	異なり語数 13		延べ語数 17	異なり語数 8		延べ語数 23	異なり語数 5		延べ語数 7

表 9　JNS 表出語彙（課題 2）

修飾部（イ）	基準（級）	表出数	修飾部（ナ）	基準（級）	表出数	述部（イ）	基準（級）	表出数	述部（ナ）	基準（級）	表出数
悪い	4	3	正当	1	1	ない	4	6			
いい	4	2	多大	級外	1	多い	3	2			
小さい	4	2	適当	3	1	いい	4	1			
有難い	2	1	必要	3	1	おかしい(変)	3	1			
狭い	4	1				久しい	1	1			
難しい	4	1				悪い	4	1			
異なり語数 6		延べ語数 10	異なり語数 4		延べ語数 4	異なり語数 6		延べ語数 12	異なり語数 0		延べ語数 0